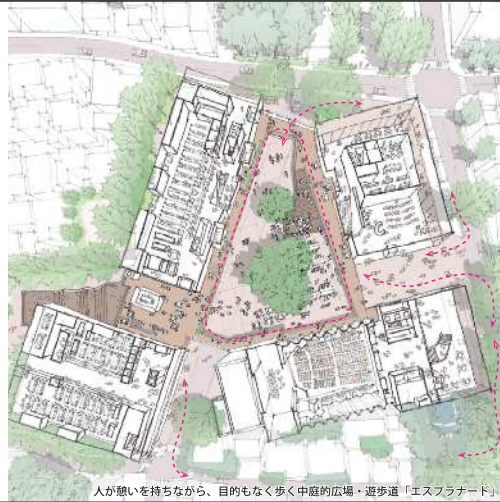


A 広場の構成と設計背景

【エスプラナード】

なんとなく囲まれている中庭の広場と、中庭を巡る目的性のない遊歩道が連なる一連の空間構成。



人が憩いを持ちながら、目的もなく歩く中庭の広場・遊歩道「エスプラナード」。

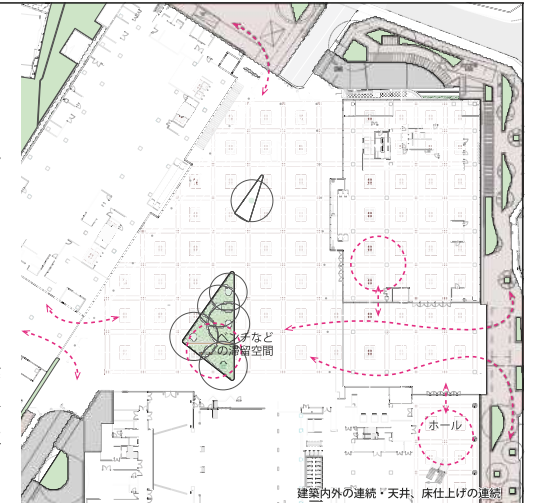
B 内外の空間の連続性

【建築内外の連続】

建物内外に連なる動線の中に広場のベンチやホールなどのベンチなど市民が気軽に留まることのできる空間を配置するという、流動性と滞留性が混ざり合った全体性により獲得されている空間。

【天井、床仕上げの連続】

外部に面するホワイエやホールでは、天井や床の素材を外部空間と連続的に設えている作品が多く、外部と内部を明確に分けるのではなく、空間の連続性を重要視。



建築内外の連続・天井、床仕上げの連続

C 微地形の形成

【階段・半地下・人工地盤】

アプローチ、広場、建築が地形と一体化されることで、敷地全体を都市の連続体として位置づけられている。



広場・ステージ・大階段・リングテラスが微地形として、連続した空間をつくる

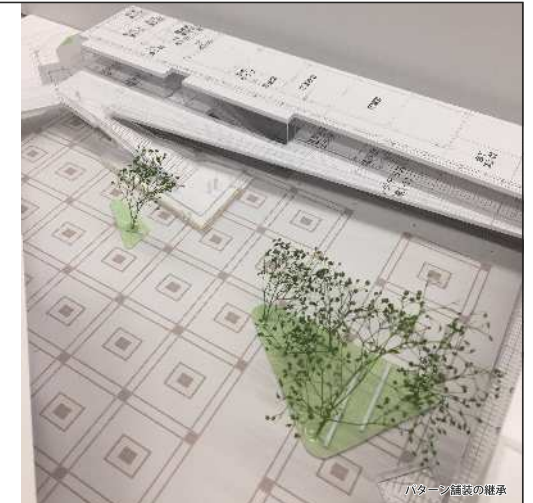
E 外構の仕上げ

【外部床仕上げ】

多くの作品に、赤褐色とグレーのタイルによるパターン舗装が使われている。

【緑地帯のデザイン】

エスプラナードには、人の流れを印象づける緑地帯と、広場内に島配置される緑地帯の組み合わせが多い。



パターン舗装の継承

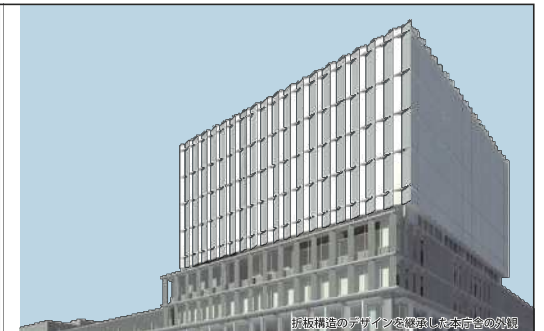
D 外装

【折板構造】

区民会館の外壁は、折板構造のコンクリートにより作られ、その形が内部空間にもデザインとして表れている。広場に面する区民会館の折板構造外壁は、広場の風景を構成する1つとして、世田谷区役所の原風景となっている。



区民会館の折板構造の外壁



折板構造のデザインを継承した区民会館の対面